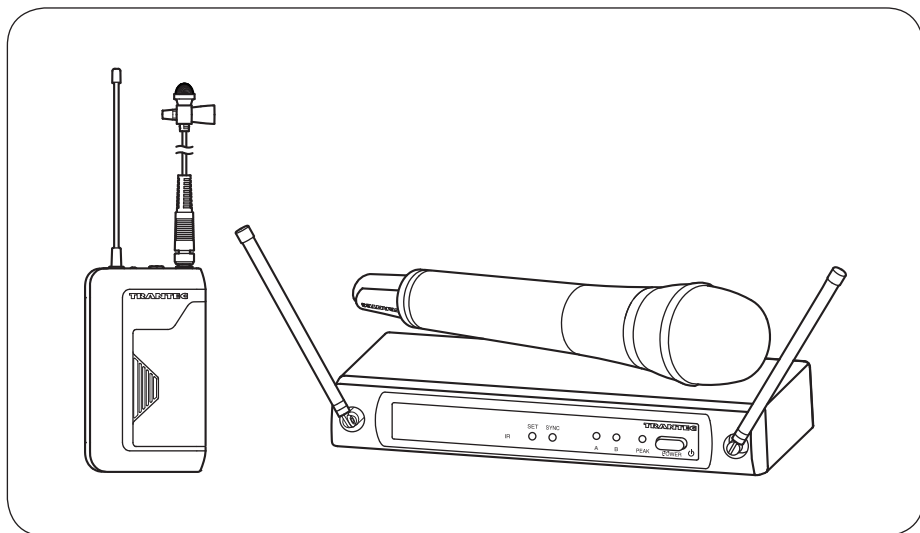


ワイヤレスハンドマイクセット
ワイヤレスラベリアマイクセットS4-HD
S4-L

このたびは、TOA ワイヤレスハンドマイクセット、ワイヤレスラベリアマイクセットをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目 次

安全上のご注意	3
概 要	7
特 長	7
使用上のご注意	7
各部の名称とはたらき	8
受信機 (S4-HD、S4-L 共通)	8
ハンドマイク (S4-HD 構成)	10
ラベリアマイク (S4-L 構成)	12
手動によるチャンネル番号設定	14
赤外線同期によるチャンネル番号設定	15
チャンネルスキャン	15
周波数表	16
電池消費状態表示	16
上手な使いかた	17
故障かな?と思ったら	17
仕 様	19
付属品	20

安全上のご注意

- ご使用前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

● 受信機を設置するとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁止



誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

● 受信機を使用するとき

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

内部を開けての作業は、専門業者にご依頼ください。



分解禁止

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落したり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



電源プラグを抜け

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグやアンテナ線にはさわらないでください。

感電の原因となります。



接触禁止

● マイクを使用するとき

医療機器の近くで使用しない

電磁波で医療機器に影響を与えることがあります。

本機の電源を必ず切ってください。



禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

● 受信機を設置するとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。



禁止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、
油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



禁止

● 受信機を使用するとき

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



禁止

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



強制

AC アダプターは指定のものを使用する

指定以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。



強制

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差し込んでいるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。



強制

また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。



電源プラグを抜く



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

● マイクを使用するとき

電池の液もれに注意する

長期間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。

電池から液がもれて、火災・けが・周囲汚損の原因となることがあります。



強制

電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。

守らないと、電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱をしたり、火の中に入れてたりしない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 指定した電池を使用する。
- (+)と(-)に注意し、表示どおり正しく入れる。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。



強制

概要

ワイヤレスハンドマイクセット S4-HD とワイヤレスラベリアマイクセット S4-L は、800 MHz 帯で使用するボーカルやスピーチの用途に最適なワイヤレスシステムです。

S4-HD は、ハンドマイクと受信機を組み合わせたセットです。

S4-L は、ラベリアマイクと受信機を組み合わせたセットです。

S4-HD は、高品質、高性能なダイナミック型マイクユニットを使ったボーカル用マイクを採用しています。

S4-L は、小型の無指向性マイクを採用しています。

S4-HD と S4-L は、共に、ダイバシティ型受信機を採用しており、電波の途切れを最小限に抑えます。

特長

- 800 MHz 帯 PLL シンセサイザー方式を採用しており、B 型に割り当てられた 12 波の中から任意の 1 波を選択し、送信することができます。
- 電池消費状態が電源／電池表示灯で表示されるので、電池レベルが著しく低下した場合に、本機が誤動作するのを防ぐことができます。
- 単 3 アルカリ乾電池 1 本で最大 10 時間連続使用することができます。
- S4-HD のハンドマイクは、アンテナを内蔵しています。
- 電池消費状態は、受信機の表示器に表示することができます。
- チャンネルスキャンができます。
- 赤外線式自動チャンネル設定機能があります。
- 小型で信頼性の高いシステムです。

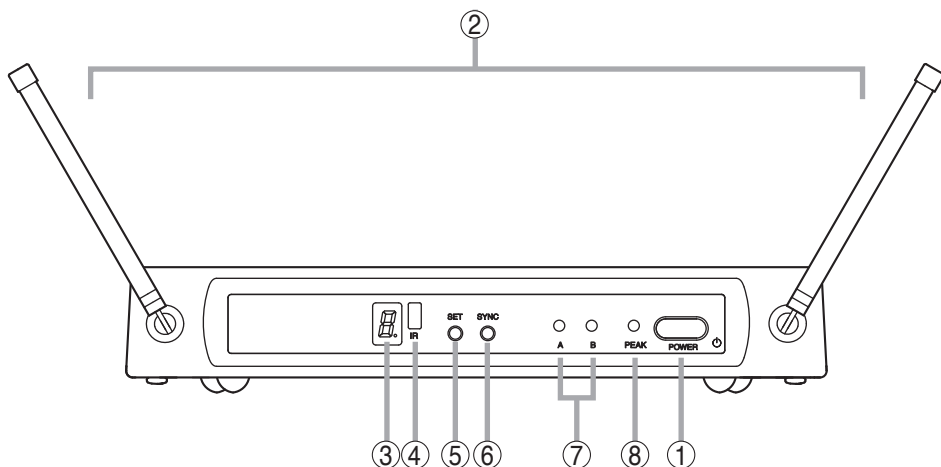
使用上のご注意

- ワイヤレスマイクは電波法に規定される技術基準適合証明品です。機器にその証明番号（証明ラベル）が貼ってあります。傷つけたり、はがしたりしないでください。
- 分解や改造は法律で禁じられています。
- 本体を改造するためにケースを開けたり、取り外さないでください。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。
- 床に落としたり、硬い物に当たったりしないでください。故障の原因となります。
- 夏の閉めきった車内のような温度の高い所や、湿度の高い所に置かないでください。故障の原因となります。
- 汗や海水のかかる所では使用しないでください。故障の原因となります。
- ワイヤレスマイクを使用している近くで携帯電話を使用しないでください。ノイズが入ることがあります。
- 本機を、蛍光灯、デジタル機器、パソコンなど高周波雑音を発生する機器からできるだけ離して設置してください。
- 汚れたときは、乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤をしみこませた布で軽くふいてから、からぶきしてください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。
- ワイヤレスマイクを 2 本以上使用するときは、ワイヤレスマイク間の距離を 50 cm 以上離して使用してください。近づけ過ぎると、音が途切れることがあります。
- ワイヤレスマイクと受信機の距離は、3m 以上離して使用してください。距離が近過ぎると、音が途切れたり、誤動作したりすることがあります。

各部の名称とはたらき

■ 受信機 (S4-HD、S4-L 共通)

[前面]



1. 電源スイッチ [POWER]

押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

2. アンテナ

両アンテナ共に鉛直から外側に45°開いてください。
本体を移動させる場合は、必ず2本のアンテナを収めて破損しないようにしてください。

3. チャンネル番号表示部

通常状態では、現在のチャンネル番号を示します。
設定モードでは、表示のチャンネル番号が登録完了まで点滅します。

4. 赤外線送信部 [IR]

赤外線同期キー (6) を押すと赤外線信号を送信します。

5. チャンネル設定キー [SET]

受信チャンネル (周波数) を選択するときに使用します。(受信周波数は、マイクの送信周波数と一致させてください。)

6. 赤外線同期キー [SYNC]

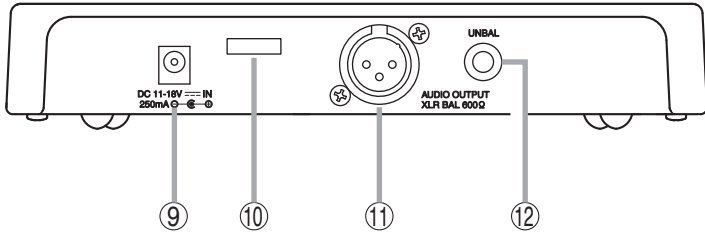
このスイッチを押すと、周波数をマイクに転送します。

7. 受信表示灯 [A、B]

マイクからの電波信号が受信機の受信周波数と一致すると、表示灯A (左側) またはB (右側) のどちらかが黄色に点灯します。

8. AF ピーク表示灯 [PEAK]

受信機の出力レベルがクリッピングレベルより約3 dB低いポイントに達すると赤色に点灯します。



9. DC 入力ジャック

付属の AC アダプターの電源コードを接続してください。

11. AF 出力 [AUDIO OUTPUT]

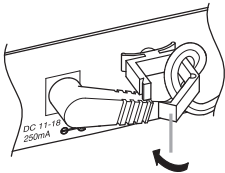
-32 dB * (最大)、600 Ω、平衡、XLR-3-32 相当品

10. ケーブルクランプ

電源コードを下図のように通して固定させてください。

12. AF 出力 [AUDIO OUTPUT]

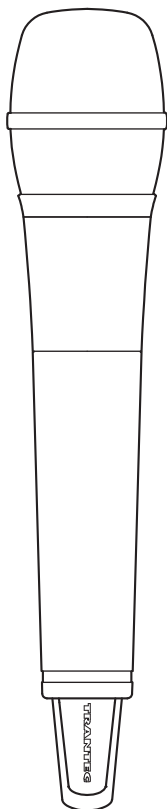
8 dB * (最大)、600 Ω、不平衡、φ 6.3 mm ホーンジャック (2P)



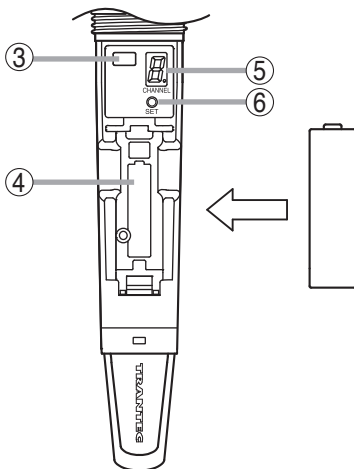
* 0 dB = 0.775 V

■ ハンドマイク (S4-HD 構成品)

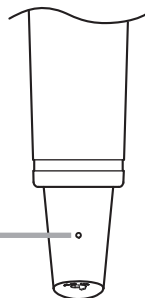
[前面]



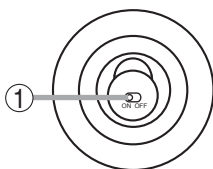
[電池収納部内]



[後面]

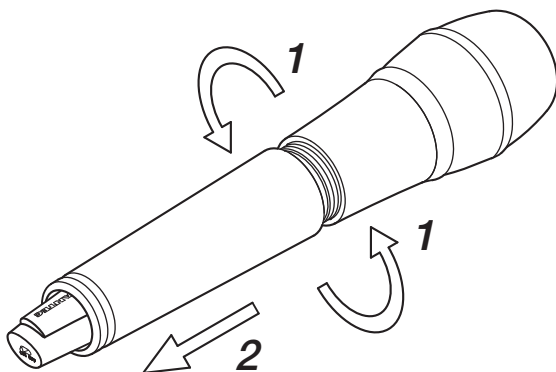


[底面]



②

[マイクグリップの外しかた]



1. 電源スイッチ [ON/OFF]

ON 側にすると電源が入り、OFF 側にすると電源が切れます。

2. 電源／電池表示灯

電池が消耗していないときは、緑色に点灯します。電池が消耗してくると緑色に点滅し始めます。

3. 赤外線受信部

受信機からの赤外線信号を受信します。

4. 電池収納部

電池収納部の (+) と (-) の表示に従って単 3 形アルカリ乾電池を 1 本挿入します。マイク本体を持ってマイクのグリップを反時計方向に回して外します。

ご注意

電池を挿入するときは、電源スイッチ (1) を切ってください。

5. チャンネル番号表示部 [CHANNEL]

通常状態では、現在のチャンネル番号を示します。

設定モードでは、表示のチャンネル番号が登録完了まで点滅します。

メモ

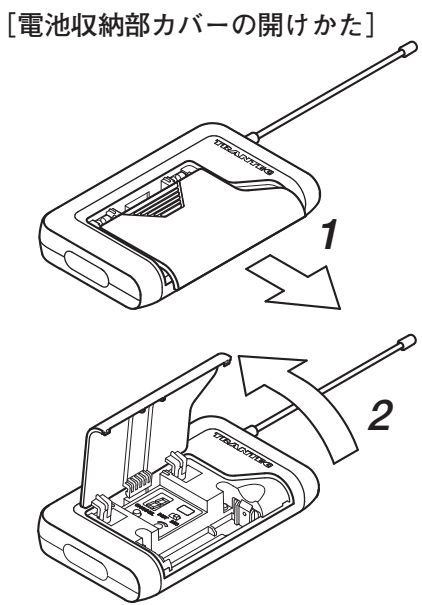
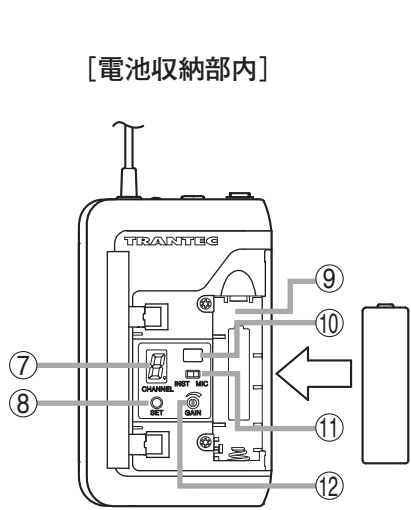
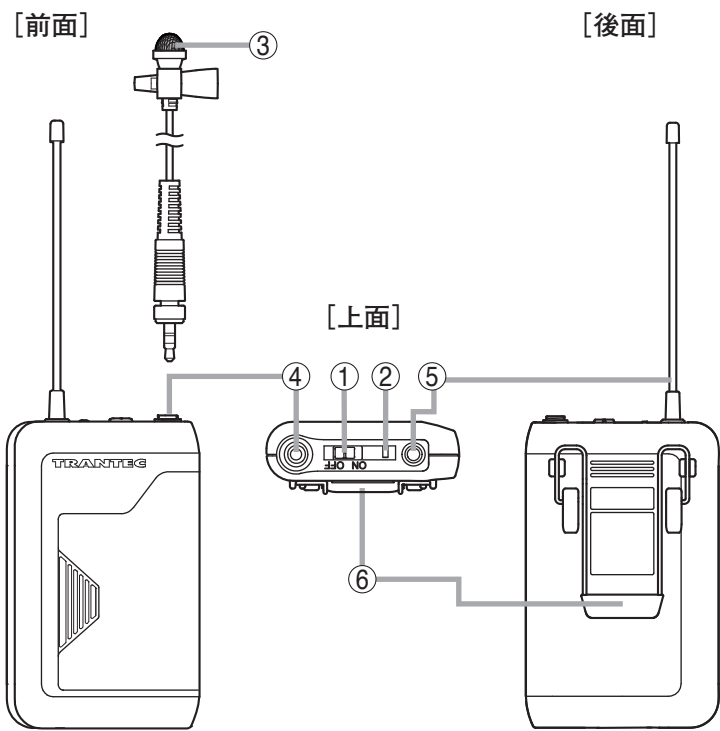
電源スイッチ (1) を ON にした後に点灯しますが、チャンネル設定キー (6) の操作が約 20 秒ない場合は消灯します。チャンネル設定キー (6) を操作すると、再度点灯します。

6. チャンネル設定キー [SET]

チャンネル (周波数) を選択するときに使用します。

周波数は、受信機の周波数と一致させてください。

■ ラベリアマイク (S4-L 構成品)



1. 電源スイッチ [ON/OFF]

ON 側にすると電源が入り、OFF 側にすると電源が切れます。

2. 電源／電池表示灯

電池が消耗していないときは、緑色に点灯します。電池が消耗してくると緑色に点滅し始めます。

3. マイク部

ご注意

マイクケーブルは、無理に引っ張らないよう注意して引き回してください。マイクケーブルは、アンテナから離すようにしてください。

4. 入力端子

φ 3.5 mm ホーンジャック (2P)
マイク部または楽器のケーブルを接続します。

5. アンテナ

ご注意

直接人体や手に触れないようにしてください。動作範囲が著しく狭くなります。

6. クリップ

このクリップでベルトに挟んで留めます。ベルトをクリップの奥側に押し付けてください。

7. チャンネル番号表示部 [CHANNEL]

通常状態では、現在のチャンネル番号を示します。
設定モードでは、表示のチャンネル番号が登録完了まで点滅します。

メモ

電源スイッチ (1) を ON にした後に点灯しますが、チャンネル設定キー (8) の操作が約 20 秒ない場合は消灯します。
チャンネル設定キー (8) を操作すると、再度点灯します。

8. チャンネル設定キー [SET]

チャンネル (周波数) を選択するときに使用します。
(周波数は、受信機の周波数と一致させてください。)

9. 電池収納部

電池収納部の (+) と (-) の表示に従って単 3 形アルカリ乾電池を 1 本挿入します。親指でカバーを矢印の方向にスライドさせ、上方向に開けます。

ご注意

電池を挿入するときは、電源スイッチ (1) を切ってください。

10. 赤外線受信部

受信機からの赤外線信号を受信します。

11. マイク／楽器切換スイッチ [INST/MIC]

マイクを接続するときは MIC 側に、楽器を接続するときは INST 側にスライドさせます。

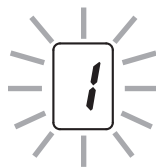
12. 入力ゲイン調節 [GAIN]

付属のドライバーを使用して入力ゲインを調節してください。時計方向に回すと送信機の感度が高くなり、反時計方向に回すと低くなります。

手動によるチャンネル番号設定

1 マイクと受信機の電源スイッチを ON にする。

2 表示されたチャンネル番号が点滅するまで、受信機のチャンネル設定キーを約 3 秒間押す。



3 設定したいチャンネル番号をチャンネル設定キーで選択する。

チャンネル設定キーを押し続ける、または押すたびに、チャンネル番号の表示が「1」～「6」、続いて「A」～「F」に1つずつ順番に変化します。「F」の次は「1」になります。



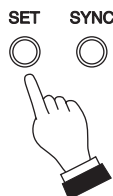
メ モ

受信機側でチャンネル番号選択時にチャンネル番号横のドット LED が点滅している場合は、そのチャンネルは、すでに使われていることを示しています。



4 設定したい番号になったらチャンネル設定キーから指を離す。

約 5 秒後に受信機が自動的にチャンネルを設定し、点滅している番号が点灯に変わります。



5 同様に、マイクでチャンネル番号を設定する。

メ モ

マイク側では、次のような動作になります。

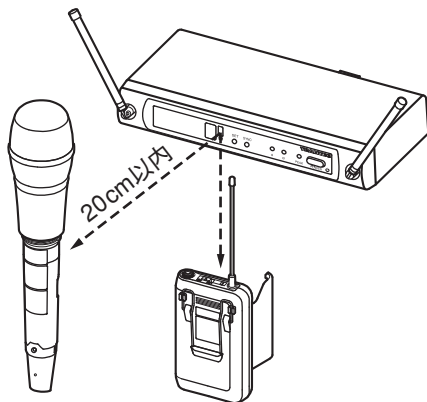
- 電源スイッチを ON にすると、チャンネル番号表示部が約 20 秒間点灯した後、消灯します。この状態でチャンネル設定キーを押すと、チャンネル番号表示部が約 20 秒間点灯します。
- ドット LED は、チャンネルの使用状況とは関係なく、電池の消費状態に応じて点灯または点滅します。

ご注意

送信機のチャンネル番号と受信機のチャンネル番号が一致していることを確認してください。マイクと受信機のチャンネル番号設定が異なっている場合は、受信機は送信機からの電波を受信することができません。

赤外線同期によるチャンネル番号設定

- 1 マイクと受信機の電源スイッチを ON にする。
- 2 受信機にチャンネル番号が設定されていることを確認のうえ、マイクの電池ケースを開ける。
- 3 マイクの赤外線受信部と受信機の赤外線送信部を 20 cm 以内に近づける。

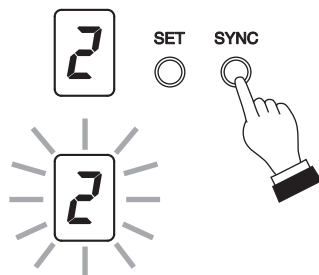


- 4 受信機の赤外線同期キーを約 3 秒間押す。

受信機の赤外線送信部からチャンネルデータが正常に送信されると、表示のチャンネル番号が点滅します。受信機とマイクのチャンネル番号が正常に同期するとマイクの表示チャンネル番号が約 3 秒間点滅します。

× モ

マイク側では、チャンネル番号表示部が消灯しても、赤外線同期が正常に行われると再度点灯します。

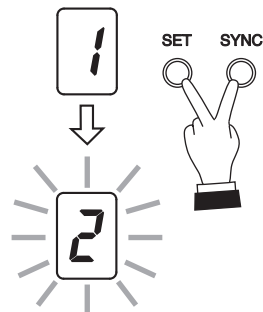


チャンネルスキャン

ご注意

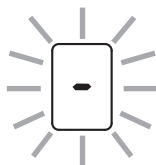
チャンネルスキャンを開始する前に、すべてのマイクおよび動作中に電波障害を起こす可能性がある機器の電源を OFF にしてください。チャンネルスキャン中に検出されることがあります。

- 1 受信機の電源スイッチを ON にする。
- 2 受信機のチャンネル設定キーと赤外線同期キーを同時に約 3 秒間押す。
チャンネルスキャンが始まり、空きチャンネル番号がチャンネル番号表示部に点滅表示されます。
チャンネルスキャンが終了すると、空きチャンネル番号が順番に表示されます。
空きチャンネルの表示が 2 周すると、チャンネルスキャン開始前のチャンネル番号が再度設定されます。



ご注意

空きチャンネルがない場合は、チャンネル番号表示部に "-" が点滅表示されます。その後、チャンネルスキャン開始前のチャンネル番号が再度設定されます。



- 3** チャンネル設定キーと赤外線同期キーを同時に押す。
受信機が空きチャンネルを自動的に設定します。

SET SYNC



[複数のシステムをセットアップするときの注意点]

各システムを1つずつセットアップします。異なるチャンネルが各システムに割り当てられていることを確認し、マイクの電源をONのままにしてください。そうしないと他の受信機からチャンネルスキャンしたときに、「使用中チャンネル」として検出されません。

周波数表

ワイヤレスマイクと受信機は必ず同じチャンネルに設定してください。
設定が異なると受信しません。

チャンネル番号表示	周波数 (MHz)	チャンネル呼称
1	806.625	B31
2	806.875	B32
3	807.375	B33
4	808.250	B34
5	808.625	B35
6	809.250	B36
A	806.750	B41
b	807.500	B42
c	808.000	B43
d	809.125	B44
E	809.375	B45
F	809.750	B46

800 MHz 帯ワイヤレスマイクのチャンネル呼称について

例 B 3 1

⋮ ⋮ ⋮
a b c

- a : 800 MHz 帯を表す
- b : グループ番号を表す
- c : グループ内のチャンネル番号を表す

電池消費状態表示

マイクの電池容量が低下すると、マイクと受信機のチャンネル番号表示部のドットLEDが点滅します。ドットLEDが点滅したら、マイクの電池を交換してください。



上手な使いかた

- 移動しながらワイヤレスマイクを使用すると、電波の反射干渉によって、デッドポイントと呼ばれる、急に音が途切れる場所が発生することがあります。デッドポイントが発生した場合には、受信機を壁や障害物から離すか、または設置場所を 40～50 cm 移動させてください。
- ワイヤレスマイクと受信機が見通せる位置でお使いください。また、ワイヤレスマイクと受信機間には大きな障害物（鉄骨やコンクリート製の壁、金属製の障害物など）を避けてください。さらに、受信機は机の上などの床面よりも少し高い位置に設置し、金属物から離してお使いください。
- S4-HD の場合、ハンドマイクを口元から 5～10 cm 程度離すようにすると、音の明瞭性が良くなります。マイクヘッド部を手でふさがないようにしてください。
- S4-L の場合、ラベリアマイクは口元から 15～20 cm 程度離して使用するのが適当です。マイク部を口元に近づけて（約 5 cm 以内）大声で話すと、音が歪んで聞き苦しくなります。

故障かな？と思ったら

症状	確かめるところ	対処のしかた
受信機の電源スイッチを押しても電源が入らない。	AC アダプターのコネクタが抜けていませんか？	AC アダプターのコネクタをしっかりと差し込んでください。
受信しない。 (受信機の受信表示灯が点灯しない。)	ワイヤレスマイクの電源スイッチは「ON」になっていますか？	ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にしてください。
	ワイヤレスマイクの乾電池が消耗していませんか？	新しい乾電池と交換してください。
	受信機のチャンネル番号はワイヤレスマイクと同じですか？	受信機とワイヤレスマイクを同じチャンネル番号に設定してください。
音が出ない。	受信機とアンプが正しく接続されていますか？	正しく接続し、アンプの音量が最小になっていないか確認してください。
音が途切れたり、誤動作したりする。	ワイヤレスマイクが受信機に近づきすぎていませんか？	ワイヤレスマイクは受信機から 3 m 以上離してください。
時々音が途切れる。 (受信状態が不安定になっている。)	受信機の受信表示灯 (A と B) の点灯が頻繁に切り換わる、または両方とも消灯していませんか？	ワイヤレスマイクと受信機は、見通しのよい場所で使用するか、距離を近づけて使用してください。

症状	確かめるところ	対処のしかた
雑音や異音が出る。	受信機の受信表示灯 (A と B) が点滅したり、混信がありませんか？	チャンネルスキャンを行い、近くで干渉する電波があるかを確認してください。その上で、P. 16「周波数表」を見て、他で使用していないと思われるチャンネルに設定し直してください。
ワイヤレスマイクの電源スイッチを ON にしても電源／電池表示灯が点灯しない。	乾電池の極性は正しいですか？	乾電池を正しく入れてください。
	乾電池が消耗していませんか？	新しい乾電池と交換してください。
ワイヤレスマイクの電源スイッチを ON にすると電源／電池表示灯が点滅する。	乾電池が消耗していませんか？	新しい乾電池と交換してください。
ワイヤレスマイクの電源スイッチを ON にしても受信機の受信表示灯が点灯しない。(受信しない。)	ワイヤレスマイクと受信機は同じチャンネル番号に設定されていますか？	ワイヤレスマイクと受信機を同じチャンネル番号に設定し直してください。

仕 様

品 番	S4-HD	S4-L	
構 成 品	ワイヤレスマイク(ハンド型)1 ダイバシティワイヤレスチューナー1	ワイヤレスマイク(ラベリア型)1 ダイバシティワイヤレスチューナー1	
周 波 数 帯 域	B3 グループ：806.625 ～ 809.250 MHz B4 グループ：806.750 ～ 809.750 MHz (合計 12 波のうち 1 波)		
ト ー ン 周 波 数	32.768 kHz		
歪 率	1% 以下 (1 kHz)		
ダイナミックレンジ	96 dB (A) 以上		
ワイヤレスマイク	電 波 型 式	F3E	
	発 振 方 式	水晶制御 PLL シンセサイザー方式	
	定格空中線電力	10 mW	
	最大入力音声	130 dB SPL	-6 dBV (入力ゲイン調節最小)
	ア ン テ ナ	内蔵型	ホイップ型
	使用マイクロホン	単一指向性ダイナミック型	無指向性エレクトレット コンデンサー型
	周 波 数 特 性	80 Hz ～ 15 kHz	50 Hz ～ 15 kHz
	使 用 電 池	単 3 形アルカリ乾電池 (LR6) × 1	
	電池持続時間	約 10 時間	
	仕 上 げ	ボディ：ABS 樹脂、ダークグレー (マンセル N2.0 近似色)、 ゴム塗装 ヘッド：金属メッシュ、鉄、ダーク グレー (マンセル N2.0 近似色)、塗装	ボディ：ABS 樹脂、ダークグレー (マンセル N2.0 近似色)、 塗装
寸 法	φ 50 × 250 mm	62 (幅) × 100 (高さ) × 25 (奥行) mm (アンテナを除く)	
質 量	215 g (電池別)	70 g (電池別)	
ワイヤレスチューナー	電 源	AC 100 V、50/60 Hz (付属の AC アダプター使用)	
	消 費 電 流	250 mA 以下	
	受 信 方 式	ダブルスーパーヘテロダイナー方式	
	ダイバシティ方式	アンテナダイバシティ方式	
	受 信 感 度	SN 比 96 dB 以上 (17 dB μ V 入力、1 kHz 変調、 \pm 38 kHz 偏移)	
	ア ン テ ナ	ホイップ型、前面固定型	
	音 声 出 力	-32 dB*、600 Ω 、平衡、XLR-3-32 相当品 8 dB*、600 Ω 、不平衡、φ 6.3 mm ホーンジャック (2P)	
	周 波 数 特 性	50 Hz ～ 15 kHz	
	仕 上 げ	ABS 樹脂、ダークグレー (マンセル N2.0 近似色)	
	寸 法	215 (幅) × 39 (高さ) × 118 (奥行) mm (アンテナを除く)	
質 量	480 g		
使用温度範囲	0 ～ 40°C		
使用湿度範囲	30 ～ 85% RH (ただし結露のないこと)		

* 0 dB = 0.775 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

[S4-HD]

AC アダプター	1
マイクホルダー	1

[S4-L]

AC アダプター	1
設定用ドライバー	1

TOA お客様相談センター	フリーダイヤル 0120-108-117	商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。
商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。 受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日、祝日除く)	ナビダイヤル 0570-064-475 (有料) FAX 0570-017-108 (有料) ※ PHS、IP 電話からはつながりません。	

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-07-00092-00